

会社概要 (2021年3月31日現在)

商号	株式会社和井田製作所 (英文社名: WAIDA MFG. CO., LTD.)
所在地	〒506-0824 岐阜県高山市片野町2121番地
設立	1946年10月22日
資本金	8億4,330万円
従業員数	165名(連結)
連結子会社	和井田友嘉精機股份有限公司(台湾)

株式の状況 (2021年3月31日現在)

発行可能株式総数	24,000,000株
発行済株式の総数	7,028,000株(自己株式585,590株を含む)
株主数	3,373名

大株主(上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
和井田 光生	431,177	6.69
和井田 俣生	390,060	6.05
株式会社十六銀行	321,300	4.98
株式会社三菱UFJ銀行	321,000	4.98
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	310,800	4.82
和井田 叔子	250,000	3.88
和井田製作所従業員持株会	154,300	2.39
MSIP CLIENT SECURITIES	151,700	2.35
和井田 克子	121,200	1.88
和井田 雅生	120,800	1.87

(注) 持株比率については、自己株式(585,590株)を控除して算出しております。

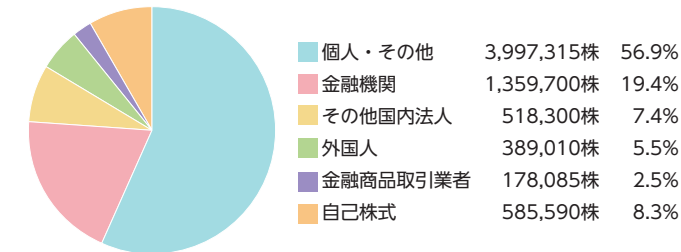
役員 (2021年6月22日現在)

代表取締役会長兼社長	和井田 光生
代表取締役副社長	久保 朝義
専務取締役	森下 博
取締役	松村 忠典
取締役	比良 謙吾
取締役(監査等委員)	田村 孝至
取締役(監査等委員)	渡邊 一(弁護士)
取締役(監査等委員)	山下 英一(税理士)

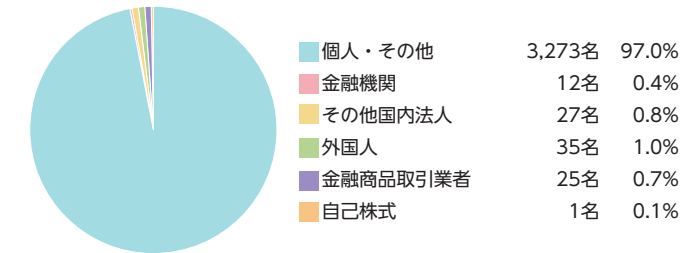
(注) 渡邊一氏及び山下英一氏の両名は、社外取締役であります。両名を独立役員として指定し、東京証券取引所に届け出ております。

株式分布状況 (2021年3月31日現在)

○株式数構成比



○株主数構成比



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告する一定の日
定時株主総会	毎事業年度終了後3か月以内
単元株式数	100株
上場金融商品取引所	東京証券取引所 JASDAQ(スタンダード)
公告方法	電子公告 アドレス: https://www.waida.co.jp/ ただし、電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所	〒460-8685 愛知県名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電話照会先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 本店及び全国各支店
・住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について	株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
・未払配当金の支払いについて	株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

お問い合わせ先 株式会社 和井田製作所 経営企画室
〒506-0824 岐阜県高山市片野町2121番地
TEL:0577-32-0390 FAX:0577-37-0020 URL <https://www.waida.co.jp/>



飛騨国分寺 三重塔 (岐阜県高山市)

ごあいさつ



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。第92期(2020年4月1日から2021年3月31日まで)の当社グループは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け前年同期比で大幅な減収減益となりました。しかしながら、後半では受注が底を打つなど持ち直しの動きがみられ、第93期に向けて市場回復に期待をつなぐことができました。引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する見通しですが、リスクに対応しながら回復基調にある市場環境の変化を的確に捉え、厳しい状況下においても商機を逃さない事業運営を進めてまいります。株主の皆様におかれましては、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役会長兼社長 和井田 光生

第92期の概況

第92期（2020年4月1日から2021年3月31日まで）の当社グループは、新型コロナウイルス感染症による影響が長期化中、海外への渡航制限や国内での移動自粛などにより、営業活動や製品の出荷に様々な制約を受ける状況となりました。このような状況下、従来対面で行ってきた商談や納入検収等の業務にリモート技術を積極的に活用するとともに、昨夏の緊急事態宣言の解除を受け感染症対策を講じながら国内外の出張を再開するなど、受注や売上の維持に努めてまいりました。

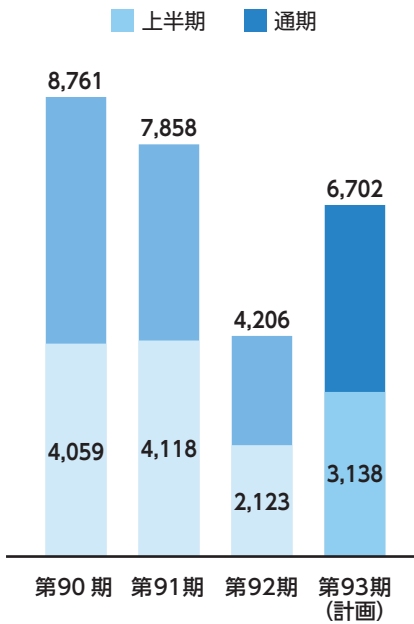
下半期に入ると、先行きの不透明感から見送られてきた設備投資に回復の動きが見られるようになりました。

特に中国で生産活動が急ピッチで回復していることを受けて商談が活発化し、年明けから受注が増加しております。市況の回復に備え、増産準備や短納期対応などの施策を講じていたことから、回復した受注の一部は期中の売上として第92期の業績に寄与しました。

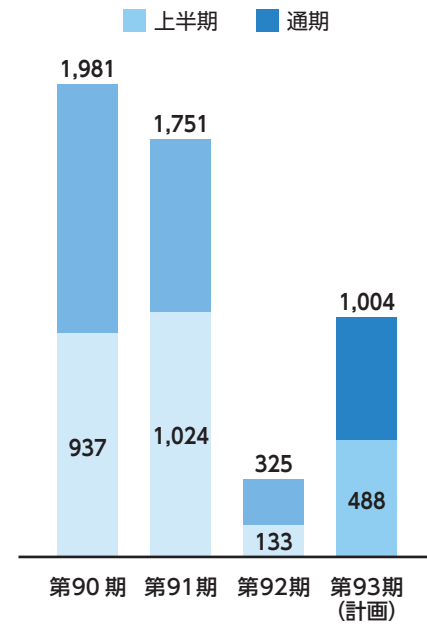
以上の結果、売上高は4,206百万円、経常利益は325百万円（経常利益率7.7%）、当期純利益は222百万円（当期純利益率5.3%）となりました。前年同期比で売上高は46.5%減、経常利益は81.4%減と大幅な減収減益となりましたものの、生産調整や経費の抑制などの諸施策により、黒字を維持することができました。

業績ハイライト

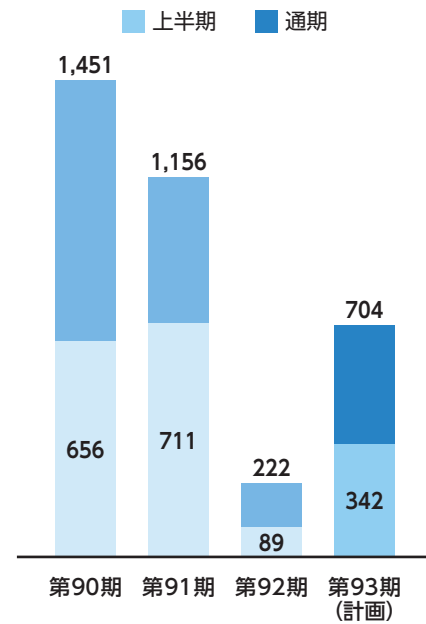
売上高 (単位:百万円)



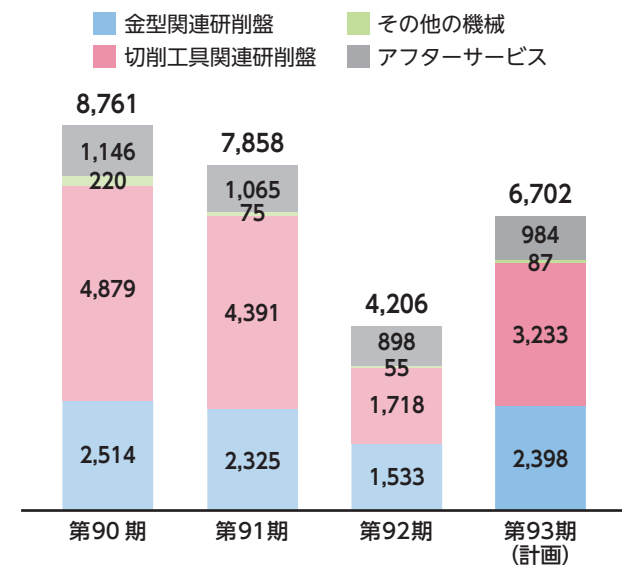
経常利益 (単位:百万円)



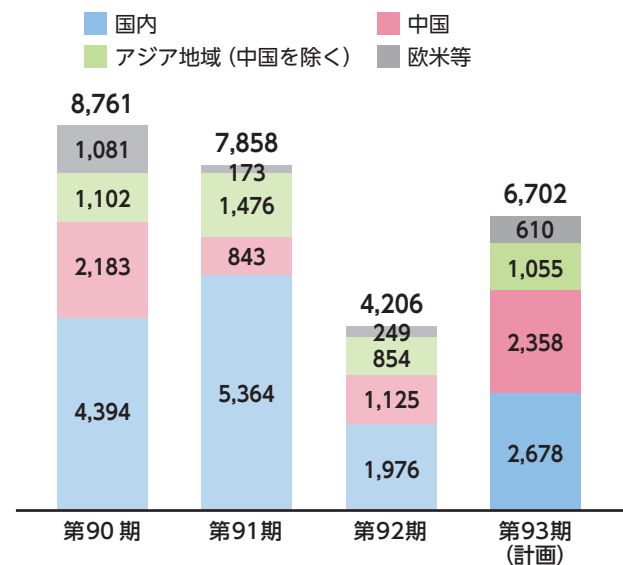
当期純利益 (単位:百万円)



品目別売上高 (単位:百万円)



地域別売上高 (最終据付地にて集計) (単位:百万円)



第93期の見通し

第93期（2021年4月1日から2022年3月31日まで）の市場環境は、依然として新型コロナウイルス感染症の影響を払拭できないものの、世界的なワクチン接種の拡大や各国の経済対策等により、世界経済の回復はさらに加速することが期待されます。

このような経済見通しの中、当社の受注環境も回復傾向にあります。

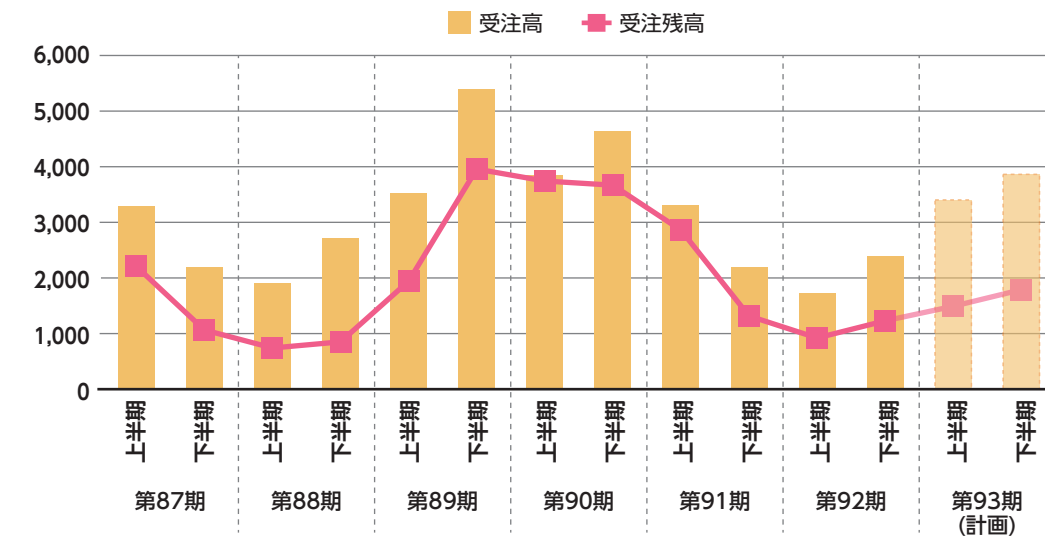
まず、金型関連研削盤の市場では、中国での旺盛な需要を背景に受注が拡大しており、東アジアや国内の市場においても緩やかながら回復基調にあります。

また、切削工具関連研削盤の市場では、最終需要先である自動車業界が感染症拡大の影響を受けたことに加え、設備投資サイクルの端境期に当たったこともあり、1年近く受注が低迷しておりました。しかしながら、年明けから設備投資に向けた動きも見られるようになり、まとまった受注が期待できる状況にあります。

受注環境の好転により売上の回復が見込める一方で、工場稼働率の改善による効果とともに、引き続き海外渡航に一定の制約を受ける可能性が高く経費の抑制要因となることから、利益についても改善する見通しです。

これらの状況をふまえ、第93期通期の売上高は6,702百万円、経常利益は1,004百万円、当期純利益は704百万円になるものと見通しております。この水準は、新型コロナウイルス感染症拡大前の前々期（第91期）と比較した場合、売上高は85.3%、経常利益は57.4%の回復に相当します。また、配当金につきましては、第93期中間配当金は1株につき15円、第93期期末配当金は15円（年間では30円）を予定しております。

受注高・受注残高の推移 (単位:百万円)



トピックス

ホームページに製品動画を掲載しました

当社ホームページの「全自動プロファイル研削盤」「ジグ研削盤」「全自動5軸複合インサート研削盤」「全自動溝入れインサート研削盤」の各製品情報ページに、動画を掲載しました。

各ページの動画再生ボタン をクリックするとご覧いただけます。動画では、当社製品が実際に動作しているシーンや製品の特徴などを紹介しておりますので、ぜひご覧ください。



新製品 APX-F50を市場投入しました

切削工具関連研削盤であるAPXシリーズのハイエンドモデルとして開発してまいりました APX-F50を市場投入しました。

APX-F50は5軸制御を採用しており、従来機では不可能であった複雑な形状の加工にも対応しております。

高度化、複雑化するお客様のニーズに応え、新たな需要の拡大に取り組んでまいります。



※ 記載金額は、表示単位未満の端数は切り捨てて表示しております。

※ 本株主通信では「親会社株主に帰属する当期純利益」および「親会社株主に帰属する四半期純利益」を「当期純利益」として表示しております。